NIE実践報告

1．タイトル：メディアの情報を読み解く　「新聞比較」と「新聞づくり」で批判的思考力の育成

2．学校名

宮崎県立宮崎大宮高校

3．実践者名（代表者名）

山﨑　俊一

4．学年

1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

「探究」（総合的な学習の時間）・文科情報科８４名

6．単元（本時の学習課題）名

グループで作成した壁新聞を批判的に読む

7．目標(狙い)

グループで作成した壁新聞を批評し合うことで、発信者における情報の取捨選択を意識化させる。

8．評価の視点

壁新聞の情報の信頼性や妥当性を吟味しているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「メディアの情報を読み解く」［総合的な学習の時間：６時間］

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①新聞記事の比較１　１時間
同じ事件の報道のされ方の違いを複数の新聞の比較を通して確認する。
②壁新聞づくり　　３時間
グループごとに好きなテーマで壁新聞を作る。
③壁新聞発表　　１時間
クラス内でグループごとの発表をし、クラス代表を選出する。
④壁新聞を批判的に読む　　１時間　〈本時〉
クラス代表の新聞（２クラスのため２つ）を「批判的視点」で批評し合う。
⑤新聞記事の比較２　課題
複数の新聞を比較し、事件の報道のされ方の違いをレポートにまとめる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・新聞を比較することで、それぞれがどのような意図を持ってその記事を書いたかを読み取り、また私たちが普段読んでいる記事が本当に正しいのか複眼的思考で考える良い機会でした。特に自分たちが実際に新聞を作ったため、意図を持って記事が作られるということがよく実感できました。

12．成果と課題

新聞を学習材として検討すると、新聞の記事は、正しい日本語で信頼性ある内容が書かれている上に、新聞社によって「立場の違い」や「ゆれ」もあるため、「真実は何か？」と批判的な思考活動をさせる上で、きわめて有効な学習材であった。今回の授業では「新聞比較」と「壁新聞づくり」を行ったが、情報の受信者（読み手）と発信者（書き手）の両方を経験させることで、新聞の書き手が「何を報道し」「何を報道しないのか」という取捨選択を意識化させることができた。そしてこの意識こそが、情報の真偽を吟味する力につながる。
「本当にそうなのか？」と疑う行為は、物事の本質を多角的に見極めようとする知的営みである。このＮＩ